

①ICT を活用した業務改善

～いわき市公立学校教育事務研究協議会システム委員会の取り組み～

いわき市立小名浜第一中学校 主査 笹川 和博

1 はじめに

今回の発表では、いわき市公立学校教育事務研究協議会（以下、いわき市事務研という。）における I C T の比較的得意な会員が所属する「システム委員会」の活動内容を紹介する。私は、令和5年度よりシステム委員会の委員長として、I C T を用いた業務改善を行っている。

2 いわき市事務研について（第2次研修計画より）

（1）研究組織

3つの研究委員会を設け、全会員が研究委員会に所属し、研究を行っている。

- ・資質向上委員会
- ・情報委員会
- ・システム委員会

（2）研究課題

会員の資質向上と情報の共有化、効率化を図るためのソフトの開発等、事務処理を進めるにあたり必要なスキルを身につける。

すべての学校事務職員がキャリアに応じた研修等を行うことにより、基礎の習得からキャリアアップへとつながる資質向上・能力開発を図る。

（3）主な活動内容

①資質向上委員会

ア）連携・共同グループ長班

- ・連携グループの実践研究と事務支援等の実施
- ・学校事務担当者会議への協力（企画）
- ・新任事務担当者等実務研修会への協力（運営）
- ・「いわき市学校事務の連携・共同実施の手引き」、及び「研修計画」の更新

イ）実務研修・事務改善等推進班

- ・学校事務担当者会議（全体研修）の企画、運営
- ・新任事務担当者等実務研修会の企画、運営（説明資料の作成及び更新を含む）
- ・研究集録の発行
- ・研修・研究の記録の作成

②情報委員会

ア）広報班

- ・会報の発行
- ・いわき市事務研要覧の発行

イ) 事務担当者向け情報啓発班

- ・「みんなのじむ」の発行（会員向け事務だより）

ウ) 教職員向け情報啓発班

- ・「あなたのじむ」の発行（教職員向け事務だより）

③システム委員会

ア) ソフト開発・管理班

イ) データ管理班

ウ) ホームページ管理班

3 システム委員会の実践紹介

(1) 全体活動

「事務職共有フォルダ」管理運営

いわき市では、教職員一人一人にPCが配当されており、いわき市教育委員会よりネットワーク認証カードとして、共有サーバに接続できる「事務職カード」が事務を担当する職員に付与されている。このいわき市教育委員会の共有サーバ内に事務職共有フォルダが設置され、その管理運営をいわき市事務研役員と当システム委員会が主体的に担っている。

このフォルダ内の分類や取扱いについて、会員へ意見を聞くため令和6年12月いわき市事務研理事会に提案した。その後意見を集約し、保存データのいわき市外異動時の持ち出しについての取り決めも整備した。**資料1**

また、教職員PCとは別に各校に配備されている地域イントラネットPCに国や県、市からの各種通知文書や提出文書等がデータで送信される。その中で必要なデータを事務職員各々が教職員PCに取り込んでから事務処理を行っていた。地域イントラネットPCは基本的に各校一台ずつで職員室に設置されており、事務室を空けて作業をしなければならず、対応に苦慮しているとの会員意見を汲み、システム委員会で一括して事務職共有フォルダに移行し保存することとした。保存する際は、フォルダ名の頭に送信された日付を明記することになっている。さらには、フォルダ内に移送したデータは、その都度テキストファイルで更新状況を分かるようにしている。**資料2**

これらの整備を行っていく上で、フォルダ内データ容量について超過が見込まれたため、比較的容量を圧迫していた共同・連携関係の不要なデータ削減等を共同・連携グループ長を通してお願いをした。それでも十分な容量減とはならなかったため、いわき市事務研より校長会を通し、いわき市教育委員会へ要望を行った。その結果、要望が認められ、6GBだった容量を令和7年4月より15GBに増加していただくことができた。

(2) ソフト開発・管理班の活動

①新規ソフト作成・配付

会員からの要望を取り入れながら、いわき市独自の事務処理対応した「就学奨励費ワークシート」（R6.6月配付）や、「非常勤講師出勤報告ワークシート」（R7.5月配付）を開発し、フォルダに格納した。

②既存ソフト更新（修正）

現在事務職共有フォルダ内にある、ソフト開発・管理班作成ソフトや、すでに退職された先輩事務職員から提供された個人作成ソフトについて、不具合や、軽微な仕様変更、様々な規則改正等に対応すべく、班員で分担し活発な情報交換をしながら活動を行っている。また、ソフトの取扱い説明書についても文言修正などの更新を行っている。**資料 3**

令和 5 年度には、かねてより就学援助支給事務において、校長委任代理人口座より保護者へ支給する際、銀行の金種別払戻手数料問題があった。いわき市事務研がいわき市教育委員会に問題解決を要望し、協議を重ね、いわき市教育委員会より直接保護者口座に振り込む制度変更につなげた。当委員会では、それまでの「就学援助費ワークシート」ソフトの修正を早急に行い、事務処理制度変更から当該事務を行うまでの期間が短かったため、共同連携運営委員会の研修を利用し、ソフト開発・管理班によるオンライン説明会を行った。**資料 4**

③「ソフト利用についての注意」資料作成

ソフト開発・管理班作成ソフトの利用についての注意をまとめた資料を作成し、会員に注意喚起を行った。**資料 5**

④新任事務担当者等実務研修会で説明協力

資質向上委員会で運営を行っている新任事務担当者等実務研修会において、転任関係書類作成ワークシート等の操作説明を行っている。

(3) データ管理班の活動

①「新採用教職員のための学校事務ハンドブック」の更新

平成 5 年度福島県公立小中学校事務研究会第 16 回研究大会郡山大会において、いわき市事務研特別委員会の研究で作成・発表された資料である。採用された教員が事務手続きで困らないようにという趣旨で作成され、いわき教育事務所と連携を図り、3 月中に行われていた新採用教職員辞令交付式にて新採用者全員に印刷・配付していた。現在はデータ管理班の活動として班員で分担し、内容充実を目標に掲げ、毎年データ更新作業を行い、各学校で新採用者や期限付職員に配付・活用されている。昨年度はいわきローカルルール等の掲載（文書送達手順、封筒リサイクル利活用、機密文書処理方法など）を行った。

資料 6

②「事務担当者のための年度末・始事務処理ハンドブックの更新

平成 21 年度いわき市事務の内郷、好間・三和方部研究発表において、学校数が多くへき地・山間部に新任事務担当者が多数採用された方部の実態から作成された。年度末から年度始めにかけて様々な提出物があり、新任事務担当者が事務処理を行う際にわかりやすく役立つハンドブックを作成することによって、サポートする側の事務職員にとっても負担軽減につながることを目指した。現在はデータ管理班の活動として修正・更新作業は継続され、現在も新任事務担当者等実務研修会や、共同・連携運営委員会での重要な説明資料となっている。**資料 7**

毎年、掲載内容を工夫しながら制度や事務処理、様式の変更などに対応した資料作成を心がけている。昨年度は、給与データ入出力システムの運用開始に伴い、R P A給与データシステムの事務処理に特化した「給与システムハンドブック」も作成し、配付した。今年度は、Google Form で全会員への活用アンケートも実施し、次年度への掲載内容の充実に向けて活動を行っている。**資料 8**

(4) ホームページ管理班

①いわき市事務研ホームページの管理・運営 (Google サイト利用)

令和 6 年度よりいわき市事務研活動の様子について積極的に更新を行った。まず、いわき市事務研ホームページ運営指針について改めて理事会で内容について協議し、この運営指針に基づいて更新を行っていくことを確認した。また、会員への自身の画像について掲載可否の承諾を Google Form を用いて行い、その結果を役員全員で情報共有した。

また、会員以外の外部講師については、いわき市事務研庶務を通し、掲載内容について確認をすることとした。

更新にあたっては、いわき市事務研会長をはじめとする事務局、各研究委員会委員長で構成された Gmail スペースで合議の上、掲載している。

ア) 令和 6 年度の更新内容

R 6. 7 組織や活動計画を令和 6 年度向けに更新

R 6. 11 学校事務担当者会議②更新

R 6. 12 第 2 回学校事務担当者会議準備会更新

R 6. 12 学校事務担当者会議③研究委員会資質向上委員会発表リハーサル更新

R 7. 3 学校事務担当者会議③更新

②ソフト開発・管理班へのサポート

更新したソフトの動作確認作業の補助も行っている。

いわき市事務研 H P U R L <https://sites.google.com/fcs.ed.jp/iwaki-jimuken>

4 おわりに

I C Tを活用した学校事務の業務改善は、学校全体の生産性向上、働き方改革の推進、そして何よりも「子どもたちが主役の教育」を実現するための重要なカギとなる。いわき市事務研システム委員会は、教育委員会、教育事務所等の関係機関と連携し、これらの活動を通じて学校事務職員の業務効率化に貢献している。委員会活動によって習得した I C Tの知識や技術は、委員自身の資質向上につながり、研究成果物を会員で共有・活用することで創出された時間は、会員一人ひとりがそれぞれの勤務校で学校運営に積極的に参画し、より質の高い教育環境を築くための一助となることを願っている。